

[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)[Worker's 広場](#)[関連リンク](#)

資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [一般教養](#) | [自己啓発](#) | [福澤諭吉伝 \(4\)](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[社会保障](#)[労使トラブル法律相談Q&A](#)[労働関係法](#)[経営全般](#)[人間関係とコミュニケーション](#)[ライフプラン](#)[男女共同参画](#)[公務員関係法](#)[日朝の歴史](#)[7つの習慣](#)[中東の歴史](#)[ボランティア活動](#)[環境活動](#)[社会貢献活動](#)[自己啓発](#)[生涯学習](#)[外交・防衛問題](#)[資本論](#)[教育カリキュラム](#)[日本国憲法](#)

福澤諭吉伝 (4)

1858年、江戸に着いた諭吉は、藩の江戸屋敷の長屋を与えられました。

諭吉はここに塾をつくり、オランダ語を教えることとなります。

日本中の意見が開国と攘夷のふたつに別れており、その対立がますます激しくなっている時期でした。

西洋の学問を勉強しようという諭吉らは、攘夷派にとっては目障りな存在でした。

塾生たちは攘夷派に殺されるかもしれないと不安でしたが、好奇心の強い諭吉は見聞を広めようと横浜に行って驚かされます。

1859年、五国条約というものが発布されたので、横浜はまさしく開港したばかりでした。

看板の字も、話している言葉も、すべて英語で、これまで学んできたオランダ語が役に立ちません。

そこであらためてヨーロッパの事情を調べてみると、いまや世界をリードしているのはアメリカとイギリスであると分かりました。

これからは英語がわからないと世界についていけないと気づいた諭吉は、英語の勉強をしようと英語力のある幕府の役人の弟子となります。

しかしいろいろと努力しても満足な勉強にはなりません。

英語の勉強に悩む諭吉は、幕府が「日米修好通商条約」を交換するために、使節をアメリカに派遣することを知りました。

諭吉は知り合いを通して、アメリカへ向かう船「咸臨丸」に乗り込む軍艦奉行の木村根津守にアメリカ行きを願い出しました。

英語を話せる諭吉の同行は許可され、1860年1月「咸臨丸」は船出しました。

同乗する日本人の中には勝海舟やアメリカ帰りの中浜万次郎らがいました。

37日間の船旅でようやくたどり着いた一行は、初めて見るアメリカに驚かされます。

「女尊男卑」の風俗などに驚いた諭吉は万次郎に言いました。

「外国語を学ぶということは、外国人と話すということだけではなく、日本とは違う文化を知ることですね」

万次郎はもとは漁師で特に学問を受けてはいませんが、アメリカの文化に接し、もの見方が広がっていますのでこう答えました。

「おっしゃるとおりです。国が違くと、言葉だけでなく、考え方も、生活の仕方もまったく違います。それに気づかないで、古いしきたりに囚われてばかりいては、国の進歩はありません」

3月の半ばを過ぎて、使節団は帰国の船出をします。

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

[>> 一覧へ戻る](#)

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

🔍 サイトマップ 🔍 このサイトについて 🔍 個人情報保護の取組みについて

🔍 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE 【ワーカーズ・ライブラリー】

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.